

令和7年度 学校の教育目標

共に輝け!! 八中生

八幡浜市立八幡浜中学校

書：竹上広子先生

八幡浜中学校「校長だより」 No.12

校訓

誠 実 情 熱 団 結

令和8年1月9日（金）

※ 八幡浜中学校 HP

「校長だより」に掲載。



「自律的に活動する八中生」を目指して（3学期始業式式辞より）

みなさん、あけましておめでとうございます。今年は午年です。馬は古来より力強さとスピードの象徴であり、前進や開運を意味する動物と言われています。また、午年は、変化を恐れず、新しい挑戦に踏み出すパワーを秘めた年とされています。今日から始まる八幡浜中学校初めての3学期のスタートにふさわしい年と言えます。

さて、2学期の終業式では、運動会、文化祭、清掃活動の様子から、八中生の皆さんが、様々なことに「主体的に活動できる八中生」に成長してきているということをお話ししました。

そこで、この3学期には、2学期よりも更に成長した「自律的に活動する八中生」を目指してほしいと思います。自律的とは、「他からの指示を待たずに、自分で考え、判断し、能動的に行動することができる状態」を言います。

私が、このように考えるようになったのは、昨年12月に入ってからのある出来事がきっかけです。北校舎の北側に、松柏方面からの自転車通学生、江戸岡・愛宕方面からの自転車通学生、松蔭方面からの自転車通学生の自転車駐輪場が3か所あります。今年度の4月からずっと、矢野先生や西野さんが、止める場所を指示していただいたり、自転車を整頓していただいたり、施錠を確認していただいたりしていましたが、駐輪の状態は良いとは言えませんでした。12月のある日も、自転車がいちいち整頓されておらず、一列で並べられていないばかりか、無理やり自転車の間に押し込んだり、通路にはみ出して止めていたりしました。このような状態の駐輪場に、後から来た自転車通学生が停めようとしても、停めるところがありません。こんなとき、どのような気持ちになるでしょうか？嫌な気持ちになったり、悲しい気持ちになったりすると思います。人がいなくなるようにするには、どうすればよいか考えました。

この翌朝から、それぞれの駐輪場の両端から、順々に詰めて停めてもらうように、みんなに声を掛けました。これを5日間、続けました。4日目ごろになると、何も言わなくても、駐輪場の両端から、順々に詰めて停めていく人が多くなりました。「さすが八中生だ!!」と思って安心しました。

翌週の月曜日、朝の会が終わったころ、駐輪場の様子を見に行きました。ところが、狭いところに無理やり停めていたり、通路にはみ出していたりしている自転車があり、大変残念な気持ちになりました。先週はできていたのに、今週はできていない・・・何とも悲しい気持ちになりました。どうして、このようなことになったのでしょうか。先生がそこにいなかったから、できなかったのでしょうか。呼び掛けられなかったから、できなかったのでしょうか。

先生が毎日、声を掛ける、毎日、忘れないように放送で呼び掛ける、このように八中生に声を掛けるのも一つの方法です。しかし、これらの対策では、「先生の指示で～する」「注意されるから～する」というふうに、誰かに頼った行動になり、自律的に活動するとは言えません。

では、どうすればよいのでしょうか。私は、「後から停める八中生が気持ちよく自転車を停められるように、自分の自転車を整頓して停める」「後から停める八中生が喜んでくれるように、自分の自転車を整頓して停める」というように、周りの八中生が気持ち良くなったり、喜んだりするような行動をすることだと思っています。自分の行動が、「八中生を悲しませていないか」「八中生が気持ちよく過ごすためになっているか」を常に考えることだと思っています。

自分が行動する前に、自分の行動によって八中生が嫌な気持ちになったり、悲しい気持ちになったりすることはないか、常に考えてください。そして、その行動が「八中生が気持ちよく過ごすためになっているか」どうかを判断してください。そして、「八中生が気持ちよく過ごすためになっていれば」、行動してください。登下校、朝の挨拶、教室での過ごし方、授業の時の態度、友達との接し方などなど、あらゆる場面で、八中生全員が、このことを頭において行動すると、「居心地の良い学級、居心地の良い学校」になってくると 생각합니다。このように自分で考え、判断し、行動できれば、「自律的に活動できる八中生」になります。

八幡浜中学校の初めての3学期、この3学期が、八中生にとって、実り多い、更に大きく成長する学期になることを期待しています。

（文責 河野 靖）



どのような気持ちになるでしょう。そこで、そんな気持ちにな

